

【目指す子どもの姿】

自己肯定感を高め、協働しながら学習や活動に取り組む児童生徒

〈 「目指す子どもの姿」 の設定の仕方 〉

- 1 小中学校合同職員研修会 ( 全員協議会 ) の開催
- 2 三校校長会による教職員の意見集約と原案作成、職員研修会での協議の繰り返し

※ 校長がリーダーシップを発揮し、方向性を示す

具体的には、(1) 数値的データを基にしたエビデンスを明確にする。(2) 常日頃児童生徒に接し、対応している教職員の受け止めや感性を大切にする。という 2 点の方向性を明示した。

(1) に関わる取組

新潟市生活学習意識調査結果の分析

- ・ 自己肯定感が低い
- ・ 自分で課題を解決したり判断して行動したりすることが少ない
- ・ 自ら課題を見付け、解決し、判断して行動すること、他者と協働して課題解決することに課題が残る

木崎中学校区の課題を明確にし、キーワードで共有化を図った→**自尊感情・課題解決力・協働力**

(2) に関わる取組

部会に分かれて、ファシリテーション ( F T ) により子どもたちの実態、子どもたちに必要なものについて意見交換を行った。そこから、子どもたちに身に付けさせたいこととして**自主・自立・貢献**の三つのキーワードが浮き彫りになった。

(3) 独自プログラムの策定に関わる取組

中学校区の課題、子どもたちに身に付けさせたいことをどうやって解決したり達成させたりするかについて協議した。その際、**教職員の実現への意欲向上を図るため、「地域とともに」「家庭とともに」「小中学校で」「小中で家庭も巻き込んで」**などの具体的な活動の場や場面を視点として示した。その結果、**防災 ( 地域と ) ・食育 ( 家庭と ) ・清掃 ( 小中で ) ・学力向上 ( 小中で家庭も巻き込んで )** という、具体的に取り組む内容が明確になった。

(4) 三校校長会で組織と担当校の原案を策定し、教職員研修会に提案した。推進委員会 ( 木崎中 )、食育部 ( 木崎小 )、徳育部 ( 木崎中 )、地域交流部 ( 木崎中 )、学力向上部 ( 笹山小 )

◆共通プログラム

① 「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」における小中一貫した教育としての取組

別紙参照：様式 2 「各中学校区における小中一貫した教育の取組 2」

〈 「身に付けさせたい資質能力」とその実現に関わる方法について 〉

【身に付けさせたい資質能力】

○主体性：課題意識と目的意識をもち、方法を工夫しながら探究活動に取り組む。

○協働性：他社と協働しながら探究活動に取り組み、学びのよさを実感する。

【その実現に関わる方法】

- 小中三校の研究主任会で、各校の児童生徒の実態（特に課題となる点）を話し合い、中学校区として身に付けさせたい資質能力を「主体性と協働性」と設定した。そして、主体的に取り組む意欲を高めるためには、子ども一人一人の自己肯定感を高めていくことが大切であることを確認し合った。各校で、「学年ごとの重点単元」を決め、単元の指導を構想する中で教職員間の共通理解を図るようにした。
- 「関わり合い（友達同士で、地域の方と、より広い範囲の方と）」に重点を置き、小中の系統性や発展性を踏まえ、これまでの各校での取組をつなげ、生かすスタンスを基本とし、教育活動の充実を図った。
- 昨年度作成した「生活科・総合的な学習の時間で行う教育活動の一覧」に示された他校の取組を参考にし、小中三校の各校が次年度の取組を見直す。小学校では2020年の統合を見据え、生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画の見直しと可能な範囲での試行を行う予定である。

② 「9年間を見通した学習の仕方」の取組

「9年間を見通した学習の仕方」については、現時点ではまだ設定していない。

2020年4月1日に笹山小学校が木崎小学校に編入統合されることが決定している。また、各学校には「学習のきまり」や「スクールスタンダード」などの「学習の仕方」に準じたものがあり、この時期にそれらを統合して新たな「学習の仕方」を策定することが、子どもたちにとって最善のことなのかという危惧がある。しかし、現状に目を向けると、全ての児童生徒が安心して授業に参加できるようにするための配慮や支援などが、個々の教師による考え方や判断で行われている面もあり、既存の「学習のきまり」的なものを集約し、中学校区内小中学校共通のものとして整えれば、子どもたちの学びを更に充実したものにできると考える。そこで、笹山小学校の編入統合後、「9年間を見通した学習の仕方」が設定できるよう、準備を進めることとした。

〈「9年間を見通した学習の仕方」の設定・運用の仕方〉

「9年間を見通した学習の仕方」を設定する際に検討する。

③ 「小中一貫合同研修会」の取組

「小中一貫合同研修会」のねらいや次第・研修内容の概略

小中学校合同職員研修会(全員協議会)(H29.2.21)

1 ねらい

中学校区の全ての教職員が子どもたちの実態や育てたいことを共通理解し、小中一貫の取組について見通しをもつとともに、独自プログラムのアイデアを出し合う。

2 次第

- ① 新潟市が目指す小中一貫教育についての共通理解
- ② 「共通プログラム」と「独自プログラム」についての共通理解
- ③ 組織づくりと1年目の活動に関する見通しの共有
- ④ 部会ごとのFTによる、子どもたちの実態、育てたい力、独自プログラムのアイデアの検討

〈「小中一貫合同研修会」の実施方法の工夫〉

- ・ 前半はプレゼンテーション中心の説明を行い、小中学校の全教職員の共通理解を図った。

- ・ 後半はファシリテーション中心の活動を行い、小中学校の全教職員の思いや願い、アイデア等を反映できるようにした。
- ・ パイロット校として、「新たな負担」を生まず効果を最大限引き出す取組を行うことを共通理解した。
- ・ 「目を見張るようなすごいこと」ではなく、「誰もが真似したくなるような、他の校区の参考になるような取組」を行うことを共通理解した。

④ 「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の取組

「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」のねらいやメンバー・次第・協議内容の概略

- 1 構成員 ※ 既存の「コミュニティ木崎村 梨の花部会（健全育成部会）」の部員を充てた。  
コミュニティ会長，同窓会長，コミュニティセンター長，育成協会長，学校評議員，交番所長，各校 PTA 会長，各校長，各校生徒指導担当，各校地域教育コーディネーター  
(事務局 中学校教頭・教務主任)
- 2 ねらい
  - ・ 地域の方々に、小中一貫教育の目指すもの、目指す子どもの姿、具体的な取組等について理解を得る。
  - ・ 地域の方々がどのような活動でどのような関わり方ができるのかについて意見交換を行い、意識の高揚を図る。
- 3 協議内容の概略
  - ・ 新潟市の目指す小中一貫教育について
  - ・ 木崎地区の子どもたちの実態について
  - ・ 木崎地区の子どもたちに高めたい資質能力について
  - ・ 独自プログラムにおける取組について
  - ・ 地域住民としての関わり方について

〈「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の実施方法の工夫〉

- ・ 新たな組織を立ち上げるのではなく、「コミュニティ木崎村梨の花部会」という既存の組織を活用した。このことにより、新たな会議を行う必要がなく、既存の会議（梨の花部会）の一部を推進委員会に充てることができた。

◆独自プログラム（「目指す子どもの姿」の達成を図る教育活動は◎）

① 何を（取組内容）：あいさつ運動

【ねらい】

- 小中学生の交流の場とするとともに、地域に貢献する心を育てる。

【いつごろ（時期）】

- ① 7月8日～12日 ② 10月16日～21日

【どのように（取組方法）】

- 中学生が小学校に赴き、地域の住民とともに小学生にあいさつ運動を行う。
- あいさつをした児童にシールを配付する。小学生は予め配付されたスタンプカードにシールを貼る。

② 何を（取組内容）：◎日常清掃の工夫，クリーン作戦

【ねらい】

- 学校や地域を愛する気持ちを育てる。

**【いつごろ（時期）】**

①清掃：年間を通じて ②クリーン作戦：7月9日 10月2日

**【どのように（取組方法）】**

- 小学校では、縦割り班を編成し上級生が下級生に清掃の仕方を丁寧に教えて取り組む。
- 中学校では、仕事の細分化を進め「黙々と清掃に取り組む」ことを目指す。
- 反省会の内容を工夫し、取組のよさを認め合う場とする。

**③ 何を（取組内容）：◎弁当の日**

**【ねらい】**

- 望ましい食習慣の形成と栄養バランスのとれた食事について関心をもたせる。

**【いつごろ（時期）】**

①木崎小 11月18日, 12月9日 ②笹山小：11月5日 ③木崎中：11月5日, 12月9日

**【どのように（取組方法）】**

- 各学年のねらいに応じた計画カードの作成
- 家庭科学習との関連を図った計画立案
- 地産地消、旬の食材活用などの共通テーマの設定

**④ 何を（取組内容）：防災教育の接続**

**【ねらい】**

- 防災意識の向上を図る。

**【いつごろ（時期）】**

年間を通じて

**【どのように（取組方法）】**

- 「新潟県防災教育プログラム」の「洪水災害編」について、小学校低学年【必須2】→中学年【必須4】→高学年【必須5】→中学生【必須7】の授業を実践する。

**⑤ 何を（取組内容）：◎防災講演会，避難所運営研修会（中学校）**

**【ねらい】**

- 「地域のために何ができるか」を考え、「自分は役に立つ」「自分なら～できる」という自己有用感をはぐくむ契機とする。

**【いつごろ（時期）】**

①講演会：6月14日 ②避難所運営研修会：11月13日 ※ 両日とも避難訓練後

**【どのように（取組方法）】**

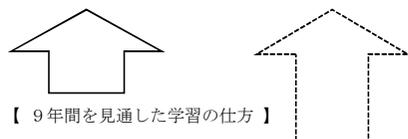
- 講演会は、中越防災安全推進機構から講師を招いて実施。
- 避難所運営研修会は、北区地域総務課から講師を招き、「クロスロード」を実施。

※ クロスロード

学校が避難所になったときや災害発生後に起こる様々な問題について、自分で考え判断することが求められる。クロスロードとは、自分とは異なる考えや価値観が多くあることを知り、共有するとともに他者への理解を深めるカードゲームである。

【中学校区における目指す子どもの姿】

## 自己肯定感を高め、協働しながら学習や活動に取り組む児童生徒



【「目指す子どもの姿」を実現するために、生活科・総合的な学習の時間で教育活動】

【中学校区における身に付けさせたい資質・能力】

- 主体性 ～ 課題意識と目的意識をもち、方法を工夫しながら探究活動に取り組む。
- 協働性 ～ 他社と協働しながら探究活動に取り組み、学びのよさを実感する。

【9年間を見通した学習の仕方】

木崎中学校区では、各校で「学習のきまり」や「スクールスタンダード」などが作成、活用されている。令和2年3月で笹山小が閉校となり、木崎小学校に編入統合されるため、今年度はこれまで各校で行ってきた取組を続けることとしている。（三校の担当者で「学習の仕方」についての情報交換と協議を続け、来年度に向けた準備を進めていく）

【独自プログラム】

「目指す子どもの姿」の達成を図る教育活動は◎

- 食育  
保護者の協力のもと「弁当の日」の取組を年間1～2回行い、食への関心と、周囲の人々への感謝の思いを高めてきた。
- 徳育  
「清掃」「あいさつ」に重点を置いている。中学生が小学校に出かけて行う「あいさつ運動（年間2回、各1週間）」により、校内や地域でのあいさつの輪が広がっている。
- 防災  
各校での授業実践及び「防災講演会」の実施（中学校）により、防災意識（小中）と地域貢献の意識（中）を高めてきた。

木崎中学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て
3	大好き新潟体験 国際理解と新潟情報発信 (9～11月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○他国の文化や習慣について意欲的に理解する。</li> <li>○新潟の文化や習慣について理解を深め、仲間と協力して情報を発信する。</li> <li>○調べたことをもとにして、留学生と積極的に交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○木崎や新潟市についての調査活動を通して、地元への理解を深めさせる。</li> <li>○留学生とのコミュニケーションのために、英語で紹介できるように事前準備を行う。</li> <li>○交流会で積極的に動けるように、班内の役割分担を明確にする。</li> </ul>
2	職場体験学習 (7～11月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験を通して、社会の規律や礼儀、思いやりやマナーの大切さについて理解を深める。</li> <li>○意欲的に体験することで、働くことの喜びや苦労、尊さを実感する。</li> <li>○仕事の実体験を通して、地域のよさを見付けられる目と心を養う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習に入るまでに、身近な人から仕事について、話を聞く場面を設定する。</li> <li>○事前準備や学習のまとめに当たっては、生徒が取り組みやすいようなワークシートを工夫する。</li> <li>○活動後のまとめの学習を重視し、多様な機器の活用を図る。</li> </ul>
1	環境学習 (9～12月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自己の興味、関心から課題を見付ける。</li> <li>○仲間と協力し合いながら、環境学習を進めることで、生物が生息できる環境の問題、温暖化など地球環境について意欲的に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各テーマに沿った見学・訪問施設を準備する。</li> <li>○事前学習やまとめ学習で具体的な資料の提供や多様な機器の活用を進める。</li> </ul>

木崎小学校				笹山小学校			
学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て	学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て
6	見直そう、私たちの生活 (5～11月)	○自分の生活を見直すという意識をもって、意欲的に弁当づくりをする。 ○自分の生活を改善するために、友達と自分が作った弁当について話し合い、良さを伝えたり、アドバイスしたりする。	○新潟医療福祉大学と連携し、栄養バランスについて考えたり、調理実習で技術を身に付けたりし、自分で弁当を作れるように支援する。 ○自分で作った弁当をアピールする活動や、友達の作った弁当を見合う活動を行う。 ○振り返りカードを書くことで、自分の生活の見直しをさせる。	6	北区のみまん (4～11月) (例)しるきーも、米、地域の農産物	○「北区のみまん」は何かについて考え、「じまん」について意欲的に調べ、発信する。 ○北区と地域を「笑顔、元気」にするため、「北区のみまん」をどのように伝えていけばよいか友達と話し合い、協力して準備し、発信する。	○「北区のみまん」に関する聞き取りや、地域の方との出会いを通して、地域の課題や願いを知らせ、課題を設定する。また、課題に対する活動のゴールイメージをもたせる。 ○子どもと地域の方と共に、どんな活動ができそうか一緒に考える場を設ける。 ○地域の方の話を聞いたり、見学に行ったりする中で、地域の方の地元を大切にしている想いの大きさを理解させる。 ○「じまん」を発信するにはどうしたらよいかを地域の方や保護者と一緒に考える場を設ける。 ○「じまん」を発信する場を設け、チームを作り相談しながら活動内容を考えたり、北区のPR活動に協力して取り組んだりさせる。
5	レッツゴー胎内 (7～9月)	○自然体験学習に向けて、見通しをもって計画を立て、活動に必要な調べ学習を行ったり、しおり作りなどの準備を行う。 ○カレー作りやオリエンテーリング、キャンプファイヤーなどの活動を行い、友達と協力してやり遂げる達成感を味わう。	○施設の写真や以前の自然体験学習の映像などを見通しを立て、具体的なイメージをもたせる。 ○野外炊さんやオリエンテーリング、キャンプファイヤーなどのグループに分かれて、それぞれの活動を成功させるためにどんな準備をしたらよいか、計画を立て、準備を行う。 ○完成したしおりをもとに、読み合わせ会を開き、各係からそれぞれの活動について説明をして、当日を迎える。	5	重点単元は二学年合同で実施		
4	わたしたちのバリアフリー (10～12月)	○誰もが高齢になると、不自由なことが増えるという意識をもち、テーマを決めて本やインターネットで調べる。 ○介護施設を知り、お年寄りと交流するためにどんな出し物がよいかを考え、友達と話し合い、準備をする。	○バリアフリー、ユニバーサルデザインなどの本を、司書と相談し用意する。 ○「ショートステイ守庵良寛」へ訪問を依頼する。 ○介護出前講座、認知症サポーター養成講座を依頼し、見聞を広めさせる。	4	笹山のきらり (4月～11月) (例)梨、やきなす、地域の農産物、神社、お店など	○「笹山のきらり」について意欲的に調べ、まとめる。 ○「笹山のきらり」について友達と協力して調べ、どのようにまとめるかについて話し合う。	○笹山地域の「人・物・こと」のよさ(＝「笹山のきらり」)について実際に地域探検をしたり、家の人に聞いて調べる。地域の人に触れさせる。 ○見つけた「笹山のきらり」についてさらに詳しく地域の人に聞いたり実際にあったりして愛着をもたせる。 ○相手意識をもたせながら調べたことをまとめさせる。
3	教えてあげる木崎のみみつ (5～9月)	○木崎の秘密を見付け出そうという意識をもって意欲的に話を聞いたり、調べたりする。 ○木崎地域を紹介するために、友達と町探検で調べてきたことについて話し合い、新聞にまとめる。	○郷土博物館の方から話を聞き、木崎の地形や歴史を知らせる。 ○興味や関心をもった地形や歴史にかかわる場所へグループごとに出かけ、今と昔を比べることで理解を深めさせる。	3	重点単元は二学年合同で実施		
2	わたしの町 大すき (9～11月)	○自分たちの住む町に興味をもち、木崎小学校区にあるお店や施設への訪問を通して意欲的・主体的に店員の方や職員の方とかかわり、人々の努力や工夫を知って地域への愛着を深める。 ○探検で見つけたことや分かったことを発表するために、同じお店や施設を探検した友達と協力しながら準備し、発表する。	○単元を通して同じメンバーでのグループ活動を行うことで、同じお店や施設での経験を話し合ったり、発表に生かしたりできるようにする。 ○探検の際、探検カードに分かったことや質問したことなどをメモさせると同時に、お店の様子やお店の人の写真を撮影して発表の時に活用させることで、どの資料を使って何を伝えるか話し合えるようにする。	2	野菜を育てよう (5～9月)	○自分が育てる野菜に愛着をもち、苗植えから収穫まで、意欲的に日々の世話をする。 ○野菜の収穫パーティーをするために友達と協力しながらパーティーの内容を考え、準備をする。	○野菜について調べたり、地域の農家の方の話を聞いたりして育てたい野菜をそれぞれ決め、実際に買いに行くことで自分が育てる野菜に愛着をもたせる。 ○育てている途中で困っていることや疑問点をクラスで共有し、地域の野菜名人に聞いたり成長の様子を伝えたりさせる。 ○かかわった地域の野菜名人に収穫のお礼をする場を設け、収穫の喜びや感謝の気持ちを伝えさせる。
1	あそびにいこうよ (10～11月)	○集めた落ち葉や木の実を使っておもちゃを作ることに興味をもち、意欲的・主体的に作ったり遊んだりすることを楽しむ。 ○作る物や遊び方を工夫するために、自分で考えたり友達と話し合ったりして、みんなで楽しく遊ぶ。	○自分たちで落ち葉や木の実を集め、種類ごとに分けて、材料を選んで、自分が作りたいおもちゃを作りやすいよう環境を整える。	1	ふゆのあそび (12～1月)	①冬の風を生かしたおもちゃを作ることに関心を持ち、意欲的・主体的に自分が作りたい物を作り、遊びを楽しむ。 ②作り方や遊び方を工夫するために自分で考えたり友達と話し合ったりして、みんなで楽しく作ったり遊んだりする。	○図を描かせておもちゃのイメージをもたせる。 ○材質、形や大きさの異なる必要な材料を用意し、種類ごとに置いて「試したい」「作りたい」想いや発想を膨らませる。 ○遊び場の近くに改良コーナーを設けたり、おもちゃ大会を設定したりして、友達とかかわりながら、よりよい遊びを工夫させていく。